

山行報告 奥又白池と穂高岳

2019年8月4～7日

秋葉信夫

北アルプスの神秘の池「奥又白池を見たい」、前に縦走しているが記憶にあまり残っていない「北穂高岳～涸沢岳を歩きたい」、「岳沢ってどんなところ？」と、69歳テントを背負って出かけた。

第1日 沢渡へ 8月3日（土） 移動（約7時間）

湯本 IC17：00⇒仮眠⇒松本 IC⇒沢渡 4：00⇒上高地 6：10

第2日 奥又白池へ 8月4日（日） 行動時間 10時間

上高地で朝・昼食に混ぜご飯、焼きそば、パンを購入し出発。明神で朝食とする。

徳沢から新村橋を渡って対岸の道路を歩きパノラマコース入口にロープが張ってあり「パノラマコースは残雪が多いため通行禁止」とある。

奥又白沢沿いに進むが遭難碑がいくつかあり、岩登りのメッカとして若者たちが競い合ったであろうことを想像させる。藪気味の路を進むとパノラマコースとの分岐・中畑新道分岐に着く。パノラマコースは右に行くが、私は左に進み尾根に取りつく。ここからは「松高ルンゼ」と呼ばれる、一部ロープが設置してあるが藪気味の凄まじい登りとなる。

約2時間30分でひょっこりと奥又白池に飛び出す。素晴らしい光景、表銀座の山々、前穂高北尾根の荒々しい姿が池に写っている美しく神秘的である。かつては岩登りのベースとして利用されていた。とっても気持ちの良い所なのでテント泊とも考えたが、時間も早いしパノラマコースはあきらめ、下って横尾まで行くことにした。



横尾で手続きをしてテントを張ろうとしたが、なんとポールがない！！ やむなく小屋素泊まりに変更。自炊場はないが、幸い天気は良い、ビールを飲みながら外で調理をする。風呂にも入れた。

沢渡 5：50⇒シャトルバス⇒上高地 6：20⇒明神 7：10⇒徳沢 8：00⇒新村橋 8：40⇒中畑新道分岐 9：50⇒奥又白池 12：20～55⇒中畑新道分岐 15：20⇒新村橋 15：20⇒横尾 16：30

第3日 北穂高岳～涸沢岳～奥穂高小屋 8月5日（月） 行動時間 10時間 20分

同室の人がガサゴソとうるさくて早くに起きてしまった。ヘッドランプを点けて出発し、本谷橋で朝食とする。涸沢に着くと一気に展望が広がる。テント場も空いている。涸沢小屋でコカ・コーラと飲み水を補給する。



さて、この急坂を重荷を背負って登れるものかなと思いながらゆっくりと登る。登るにつれて展望は増々広がる。前穂高北尾根も見事だ、以前に登攀したのを思い出す。昨日はあの尾根の向こう側・奥又白池に佇んでいたのも感慨深い。北穂の分岐に荷物をデポし、北峰をピストンする。途中の雪渓でペットボトルに雪を詰める。

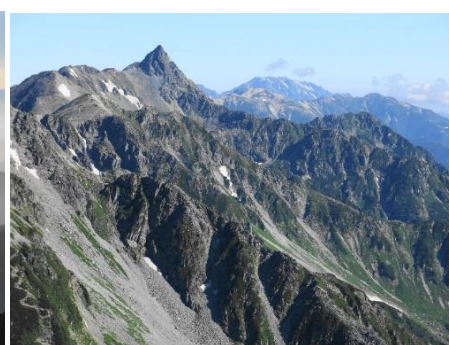
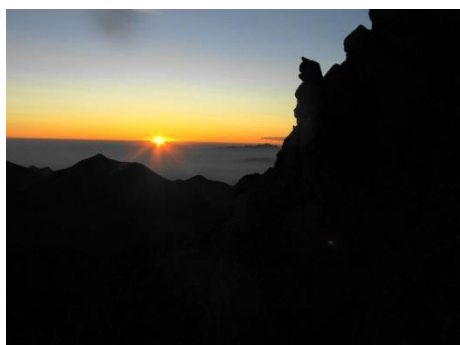
冷たくて美味しい。

しかし、大変なのはここから。北穂高岳と涸沢岳の間は険しい岩稜歩き、鎖や梯子、要所に撃つてあるピンを頼りに、登り下り、トラバースの繰り返し、重荷にバランスを崩さないように慎重に歩く。涸沢岳に着いてホッとす。

横尾 4：10→本谷橋 5：15～35→涸沢小屋 7：30～45→北穂分岐 11：05→北穂岳 11：25→北穂分岐 11：25→涸沢岳 13：45～14：15→奥穂小屋 14：30

第4日 前穂高～岳沢へ 8月7日(火) 行動時間 11時間

いびきが煩くよく眠れなかった。明るくなるのを待って出発。頂上の手前でご来光を拝む。



本日も素晴らしい展望である。富士山、槍ヶ岳や立山方面もくっきりと見えている。なんとも清々しい、「山はいいな！」



吊り尾根を通り紀美子平に荷物をデポし前穂高頂上をピストン。なんと北アルプス全山、ハヶ岳、秩父の山、中央アルプス、御嶽山、南アルプス、白山と恐らく日本百名山の内 50 山は見えているではないか？ 正に展望台である。

足下には一昨日登った奥又白池が青い瞳を煌めかせている。



前穂高からの岳沢の重太郎新道も、鎖場や梯子が連続する中々の下りだ。途中、自衛隊の集団登山に何度か途中待機をする。

この急登を外国人や老若男女、多くの人が登っている。登山の人気は中々の物だ。



山の愛唱歌に「穂高よさらば」という歌があり、それを聞くと穂高の情景がまざまざと浮かび上がってくる。

その四番

岳沢さらば また来る日まで

前穂を後に 河童橋

省みすれば 遠ざかる

まぶたに残る 曇岩

行ってみたいと思っていた所、心残りが達成できた山行でした。

奥穂小屋 4：15→奥穂岳 5：05～20→紀美子平 7：10→前穂高岳 7：

35～50→紀美子平 8：20→岳沢ヒュッテ 10：20～30→

上高地 12：30 上高地⇒沢渡 13：30⇒入浴・食事⇒松本 IC15：30⇒湯本 IC20：00

「南アルプス 赤石、荒川、塩見、蝙蝠の縦走」

2019年7月28日～8月4日

栗崎透、栗崎容子

南アルプスは好きな山域で、何度か訪れているが、南アのほぼ中央に位置する塩見岳が未踏だった。今回、憧れの蝙蝠尾根をからめて、六泊七日の行程でポレポレ山行を計画した。

7/28(日) いわきから畑薙第一ダムまで移動 車中泊

7/29(月) 赤石小屋まで 行動時間 8時間10分 (昼食含む)

畑薙第一ダムから樺島までバス移動、8:30 ごろ赤石岳登山口からいきなりの急登を、30Kg 超えのザックを背負い登高開始。相方は 20Kg ぐらいか。

久しぶりの重ザックのため足が進まない。途中、登山道は緩やかになってくるが、重いし眠いしでやすんでばかり。ホントに立ちながら寝てた。

それでも、歩いていれば、やがて赤石小屋の赤い屋根が見えてきた。

今日は、ここで小屋素泊まりとする。

すぐに、雷が鳴り出し、土砂降りの雨。

7/30(火) 荒川小屋まで 行動時間 7時間10分 (朝・昼食含む)



今日も快晴の朝を迎える。昨日の山行があまりにもキツかったので、今日は荒川小屋までののんびりな1日とする。

まずは、富士見平まで行って、富士山を眺めながら朝食にする。

その後、登山道は赤石沢の支沢に沿って急登になるが、百花繚乱、楽しませてくれる。

体も重ザックに慣れてきたようだ。

赤石と小赤石のコルに突き上げ、重ザックをデポすると、羽が生えたようにして赤石の山頂に跳び上がった。

前回の登頂時よりも周りの景色がすっきりと見渡せる。

小赤石まで登り返せば、今日の登りは終わり。

荒川小屋まで、のんびりと稜線散歩を楽しむ。

この日は、雷、夕立に遭わずテン場でもゆっくり！

荒川小屋のテン場はうまい水がジャンジャン出ていて、最高。

7/31(水) 高山裏小屋まで 行動時間 6時間50分(昼食含む)

またまた、快晴の朝。

今日の楽しみの一つは、荒川前岳東面のお花畑。前回の山行で、最も感動した光景と記憶している。

いざ、・・・この前よりは少ないかな？でも、素晴らしい花畑には違いない！

今日もゆっくり行程なので、南アの百名山がぐるっと見渡せる中岳で山座同定などしながら、1時間も遊んでいた。

その後、前岳の大崩壊地のガレの縁の急坂を通り、標高差600mを下り、高山裏避難小屋に着いた。

この日からは初めての小屋が続くが、ここもとても静かでいいテン場だ。

冬には猪苗代スキー場などにテレマークスキーに来るという小屋番さんと山スキーの話などで盛り上がり、再会を約す。

この日も、雨なし。

8/1(木) 三伏峠小屋まで 行動時間 8時間15分(朝・昼食含む)

今日も快晴。

今日は三伏峠まで、コースタイムで6時間ぐらい。

真面目に歩こう。

体はすっかり重ザックに慣れて、細かいアップダウンにも楽しく歩けるようになった。

しかし、事件発生！

小河内小屋から来たソロの女性が、「この後、77歳のソロの女性がやってきます。結構疲れているようなので、戻るように言ってください。」とのこと。

でも、一本道なのに、その方に会わずに小河内小屋に着いてしまった。そのことを小屋番さんに話すと、さっと顔色が変わり、「えっ、え!?!」

遭難事案です。

私が三伏峠小屋に着いたら、そこに彼女の足取りがあるか確認して、小河内小屋に電話を入れることに。残念ながら、今日の時点で行方不明のまま、発見されず。

皆さん、お互いに気をつけましょう。

ココヘリがあれば、遭難は防げないが発見はしてもらえるはず。

この日は、2時ごろからものすごい雷と豪雨が1時間も。

ウォーターベットのよう Tent の中で静かに過ごす。

8/2(金) 北俣岳分岐まで(ピバーク地点) 行動時間 7時間(朝・昼食含む)



ビショビショ、どろどろのテントをしまい込み、ヘッドランプを付けて歩き出す。

今日は、行った先はピバークなので、水を背負って行く。私が7リットル、相方が4リットル。

また、30Kgに戻ってしまったザックを背負い、塩見岳の岩場を持ち上げ登らなくては。

ここは、軽身で登った、槍より剣よりキツかった。

軽身なら、とっても楽しい岩登りだろう。それでも、歩いていけば、登頂できた。



そして、仙丈ヶ岳へと続く仙塩尾根を感慨深く眺めた。

だが、ガスが上がってきて、周りは真っ白だ。

先が長いので、下り始めて、北俣岳分岐で休んでいると、ポツポツと降り出した。

まだ昼前で、もう少し下りたかったが、憧れの蝙蝠尾根が真っ白では悲しいので、

ここでピバークに決定!

その後、1時ごろから雷の土砂降り。ここでのピバークは正解でした。

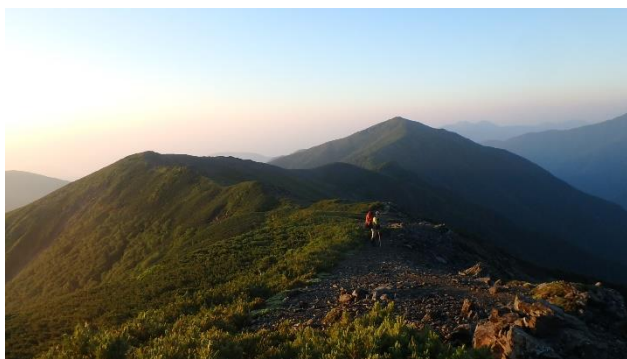
夕方、雨も上がり、仙塩尾根や明日行く蝙蝠尾根がはっきり見られた。



8/3(土) 二軒小屋まで 行動時間 10時間45分(朝・昼食含む)

昨日早めのピバークなので、今日は二軒小屋まで1600mの下り。

蝙蝠尾根がはっきりと見えて、仙塩尾根の先の仙丈、甲斐駒。
その東側に間ノ岳、農鳥岳。



目の前の蝙蝠岳、悪沢岳。

振り向くと、昨日登った塩見岳。

最高の天気にも恵まれて、気持ちのいい尾根歩き。

途中、朝露たっぷりの腰ぐらいの藪漕ぎなどもあるが、そのぐらいはしょうがないだろう。新しい「山と高原地図」では、このコースは破線になっている。

念願の蝙蝠岳に登頂。

今日は二軒小屋までは誰にも会わない、とってもマイナーなコースだが、とても楽しめた面白い下りだった。

二軒小屋のテン場で、キンキンに冷えたビールで無事に山行を終えたお祝いの乾杯！

8/4(日) 畑薙Pまで 行動時間 5時間(バス待ち含む)

二軒小屋から榎島までの3時間の林道歩き。

榎島から畑薙第一ダムまでの1時間のバス。

赤石温泉白樺荘にて1週間の汗を流して、いわきに帰る。

3年連続で夏に北アルプスを歩いていましたが、久しぶりに南アルプスを歩いてみると、やはり、南の山のデカさを感じました。

そして、南ア独特の苔むした樹林帯が気持ちいいですね。

美味しい水も豊富だし、やっぱり南がスキだな。

(文責 栗崎 透)

鳳凰三山縦走 (8月登山教室)

2019年8月10日(土)~11日(日)

生徒8名 会員10名 計18名

報告者 : 西 重

【1日目】

定刻やや遅れ3:10合同庁舎出発。バスは高速道路を快調に走行するも、夏休み3連休初日でもありついに八王子JCT周辺で大渋滞に嵌まった。予想されたとはいえ出だしから暗雲立ち込める展開である。

予定より2時間遅れで夜叉神峠登山口に到着。今夜宿泊予定の薬師岳小屋に遅れる旨連絡入れると

午後から周辺一帯に雷警報が出ており危険なので来ないほうが良いとのこと。これはせっかくのアルプス登山も中止かと不安になったところ、会員の皆さんの迅速な判断により、手前の南御室小屋へ宿泊することで一同登山開始。

スタートから夜叉神峠まで標高差400m、それぞれの足取りで森の中を登り始めるも、急登続きのうえに寝不足や夏バテ気味の者もあり、スタート当初の笑顔も次第になくなっていったが、1時間ちょっとで夜叉神峠小屋へ到着。ようやく夏の青空とアルプスの山並みが見えホッと一息つく。

休憩後、本日のゴール目指して4時間以上のロングトレイルとなることを心にとどめ、気合を入れ直し再び森の中へ突入。このコースは樹林帯の緑をたっぷり味わい、炎天下に木陰の中を登れるが、思っていたよりも花や展望が少なく、ひと時の癒しが味わいつらいなと思いながら、ひたすら森の中を杖立峠、葎平へと重い足取りで歩を進め高度を上げていく。

14:50葎平へ辿り着く。登りの連続で下半身に疲労が溜まってきたが、ここからは緩やかな下りとなる。あと30分、冷たい缶ビールを飲む光景を脳裏に浮かべると心なしか足取りも軽くなっていった。

15:20ようやくゴールの南御室小屋に到着。小屋の豊富な水を一口飲むと、「うまい！これが本当の南アルプスの天然水か」とつぶやきさらにもう一口。小屋周辺にはキタザワブシ（固有種）、メタカラコウ、ヤナギラン、クルマユリ、キオンなどの花が咲き、疲れた体を癒してくれた。テント場には青、黄、緑等々のテントが設営されていた。さすがアルプス、東北と違い登山者も若者たちが目に付く。

その後、不安視された雷も発生せず全員が無事到着した。予定外の小屋泊りで夕食の用意もなく、それぞれ持参したアルコール類、つまみを持ち寄り夕食兼反省会開始。宴は夕食まで続きお開きとなる。思い思いに明日の鳳凰三山のすばらしい尾根歩きを想像しながら床に就いた。

《1日目行動記録》

夜叉神峠登山口10:30→夜叉神峠小屋11:40→杖立峠13:10→葎平14:50
→南御室小屋15:20

【2日目】

3:50まだ暗闇の中、空には星が煌めき天の川もはっきり見える。ヘッドランプをかざし薬師岳目指してスタート。夜が明け始め、森の中を抜け、砂払岳の尾根に出ると待ちに待った絶景！雲海に浮かぶ富士山、振り返ると白根三山の雄々しい姿、甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、遠くには八ヶ岳や槍ヶ岳も見える。360度の大パノラマに一同「うおー！」の感嘆の声。それぞれご来光に手を合わせ、その後は大写真撮影会の開催となった。

テンションマックスで足取りも軽く薬師岳小屋へ到着。小屋は建て替えられて年も浅いとのことと真新しさを感じられた。本来であればこの小屋泊りのはずであり、残念な気持ちを感じながら、朝食のおにぎりを各自ほおばった。

小屋から10分ほど砂礫を登ると、目前には薬師岳頂上の巨大な岩が飛び込んできた。先には観音岳へ続く尾根道、富士山を背に白根三山を脇に観ながら歩を進める。道端の岩には南アルプスの固有種タカネピランジの白やピンクの花が可憐に咲いていた。白砂の尾根道、山の緑、青空のコントラストが実に美しく、昨日樹林帯の中をひたすら歩いていた時のテンションとは大違いである。

尾根道のアップダウンを繰り返し、観音岳に登頂、地蔵岳のオベリスクがだんだん大きく見えてくる。

7:40地蔵岳に辿り着く。眼前にそびえ立つオベリスクの大きさと神々しさに圧倒された。「やはりテレビで観るのと違い実物はでかい！」 猪狩さん他数名がオベリスク登頂にチャレンジするも頂上までは登れず残念がっていた。

休憩を終え、ここからはいよいよドンドコ沢経由で青木鉱泉までの長い長い下りが始まる。砂礫の登山道を滑るように下り、樹林帯に入ってしばらくすると、鳳凰小屋に着いた。その後、ガスで何も見えなかった五色の滝、思いのほか見ごたえのあった白糸の滝・南精進ヶ滝に立ち寄りながら岩場の急坂を慎重に下る。

歩けども歩けども「青木鉱泉」の看板はいくつも見るが、ゴールは見えない。地味な下りが続き疲労の色が濃くなる中、ようやく平坦な登山道となり、ついに青木鉱泉の建物が…。

途中アクシデント発生するも、秋葉校長の素早い判断と山岳会の皆さんの行動により、全員無事？に下山することができた。それにしても下りのロングトレイルにアルプスの山の奥深さを改めて感じるとともに、青木鉱泉からの登りは絶対にやりたくないと思う。

予定時刻を大幅に遅れたものの、今回の鳳凰三山山行の余韻に浸りながら、いわきへの帰路についてた。



(砂払岳 とも来光)

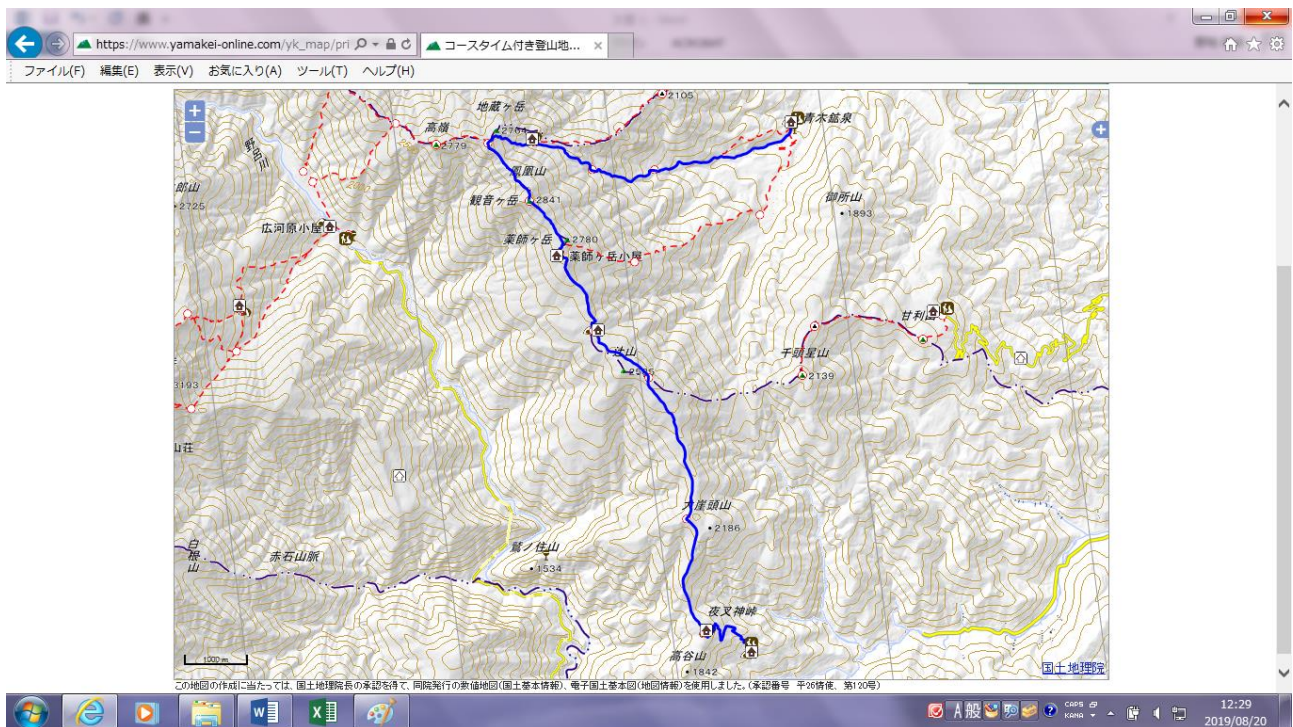


(オベリスク・地蔵岳)

≪2日目行動記録≫

南御室小屋3:50→砂払岳→薬師岳小屋5:30→薬師岳5:40→観音岳6:40→
地蔵岳8:20→鳳凰小屋9:40→ドンドコ沢→青木鉱泉15:30

(青木鉱泉への到着時間はあくまで私のグループ6名の到着時間である)



登山教室下見 平標山・千ノ倉山

2019年8月3日(土)・4日(日) 志尾崎、太、二瓶、斎藤

登山教室 10月実技で「平標山・仙ノ倉山」山行が予定のため、下見をした。

午前4時にいわき市平を出発。8時24分、元橋駐車場(970m)到着。既に車で混み始めていた。

8時40分、駐車場を出発。8時52分、登山口「松手山經由平標山」道標から登る。登山道は、階段も交じりの折り返しで、徐々に高度を上げていく。

一合目から三合目までは樹林。四合目の送電線鉄塔あたりから徐々に木立は低くなり、六合目、松手山(1,614m)を過ぎた辺りから頭上をさえぎるものなくなる。梅雨明けの直射日光が痛い。登山教室のある10月は涼しくなるだろうか。松手山から七合目付近は、傾斜が緩く、一息つける。八合目、九合目は、階段も多くきつい登りだが、スキー場や周辺の山々が眺められ、傍らに咲く高山植物にも癒される。

13時48分、平標山の頂上。眼前に緩やかで広い尾根が広がり、谷川岳への登山道が続く。時間的余裕は多少あったが、暑さによるペースダウンもあり、仙ノ倉山を往復する予定を変え、平標山乃家へ直接下る。標高差300mちょっとの下りは、ほとんどが階段であり、かなり膝にくるものがある。

14時49分、到着。平標山乃家は、営業小屋、避難小屋、テン場の3つがそろっている。我々は避難小屋を利用。水場は営業小屋脇と避難小屋トイレ脇の2か所。水は冷たく、量も十分。受付後さっそく持参したスイカを冷やし、夕食を準備。小屋周辺にはテーブルとベンチ、ウッドデッキ、鐘などがある。

平標山乃家の利用者の多くはテントに、次いで営業小屋に、避難小屋の利用は少ないようだ。このと

き週末だが避難小屋の利用はゼロ。我々4人の貸切だ。聞けば教室山行の予定10月頃でも満員になることはなさそうだ。避難小屋には調理台風テーブルにイスがあり、窓に網戸もついて快適だった。

翌朝はガスが時折かかったが、爽やかな良い天気。6時35分に避難小屋を発ち、大源太山まで快適な縦走のあと、三角山を経由して下山。10時過ぎに浅貝登山口に到着し、路線バスを使って元橋駐車場へ戻った。(10月登山教室では三国山を経由して三国トンネル先で回送車と合流の予定)

帰路、法師温泉(登山教室は猿ヶ京温泉を予定)を利用していわきへ戻った。

コースタイム

8:52 元橋登山口→9:06 一合目→9:22 二合目→9:56 三合目→10:17 鉄塔・四合目
→10:53 五合目→11:13 松手山(1,614m)→11:58 七合目→12:29 八合目
→13:08 九合目→13:48 平標山→14:49 平標山乃家(泊)

6:35 平標山乃家→7:36 大源太山→8:28 三角山→9:30 鉄塔・毛無山→10:10 浅貝登山口



(文責:太)

山行報告 守門岳 1537.3m

2019年8月26~27日 秋葉信夫

守門岳という頂上はなく「中津又岳」「大岳」「青雲岳」「袴岳」「黒姫」「烏帽子山」等の総称であり、そのたおやかな稜線は遠くから眺めても明瞭で和ませてくれる。

守門岳は残雪期にスキーで何度か登っており、その巨大な雪庇には感動した。次回のスキーコースの下見を兼ねて無雪期に登ってみた。

8月26日(月) 栃尾へ 移動(約4時間50分)

湯本 11:50⇒白河⇒南会津⇒只見⇒大白川⇒栃尾 16:40

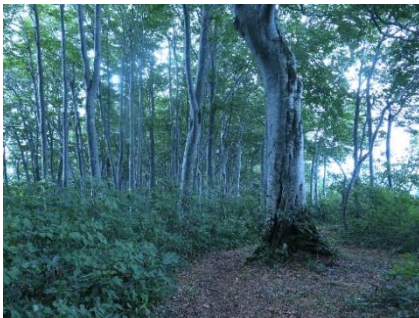
「道の駅・栃尾」で車中泊、名物の油揚げで天気祭り。

8月27日(火) 守門岳へ 行動時間10時間25分(登り1,572m、下り1,572m、20.6km)

道の駅を暗いうちに登山口に向かうが、なぜかナビが「吉ヶ平登山口」を案内し、間違いに気づき入り塩川戻り、正しい登山口に戻る。約30分ロスしてしまった。

入塩川登山口は10台くらいの駐車スペース、簡易トイレもある。30回くらいの堰堤を渡り少し行くと「山の神」の石の祠がある。30回くらい途渉を繰り返すと尾根の三角点がある。ここから緩やかな登りで「×掛小屋」老朽化していて使用はできない。

ブナ林の中の行くと「雨晴清水」、「吉ヶ平分岐」を分け「雨晴1120m」のピーク。灌木の間から守門岳も望める。緩やかな登りで中津又岳1,388mを経て巢守神社の石碑のある大岳1432.4mへ。



一旦大きく下り登り返す広々とした草原の青雲岳1,490m、程なく守門岳の最高峰袴岳1537.3mに着く。日本海、越後平野、浅草岳、越後三山、栗ヶ岳、飯豊連峰などの展望が広がる。

花は端境期で少なくミヤマホツツジ、オヤマリンドウ、イブキトラノオなどが見られた。



「道の駅・栃尾」4:00⇒入塩川登山口5:00

登り 登山口5:15→山の神5:30→三角点6:40→×掛小屋7:15→雨晴清水8:00→吉ヶ平分岐8:25→雨晴8:30→中津又岳9:15→大岳9:40→二口登山口分岐10:25→青雲岳10:40→袴岳11:00

下り 袴岳11:15→青雲岳11:25→二口登山口分岐11:40→大岳12:25→中津又岳12:40→雨晴12:20→吉ヶ平分岐13:25→雨晴清水13:30→×掛小屋14:10→三角点14:30→山の神15:25→登山口15:40